

「八王子市街地の変遷と戦災復興」

—地図と現地で見ると中心市街地—

八王子市は江戸時代以来の宿場町として栄え、幾度かの大火などにより市街地は姿を変えましたが江戸時代以来の骨格を保ったまま、明治時代以降も多摩地域の中核都市として発展しました。

しかし、第二次世界大戦末期の空襲で市街地の90%以上を焼失し、昭和21年には復興院により戦災復興区画整理計画が策定されました。以後事業収束の昭和34年までの間に全6地区のうち1,2,5地区を完了、残る3,4,6地区に対しては戦災復興区画整理の「線」をほぼ踏襲し、区画整理をはじめとする都市計画事業が平成20年まで続き、面的整備はほぼ終了しました。

八王子市は東京都の23区以外では唯一の戦災復興区画整理でしたが、名目上は市施行であることから東京都の関与は公文書等では残されておりません。しかし、当時の東京都建設局都市計画課長石川栄耀の関与があったと地域では言い伝えられています。

この整備により八王子市は大きく近代化され、駅前広場、駅前通、放射状街路、バイパス、リバーフロントの公園などが整備されました。また、旧来の三業地などは今日まで引き継がれています。

今回は八王子市の「八王子学研究会」との共催で地図に残された旧八王子の姿と今日の街並みを比べ、栄耀さんの「社会への愛情」が都市をどのように変え、その財産がどこに残されているのか、現場をたどりながら八王子のまちづくりの歴史と都市計画の夢をたどってみたいと思います。

○日時：2011年 10月29日（土）13：30～17：00

○集合場所：JR八王子駅北口改札前

○小雨決行、歩きやすい服装で

◎懇親会：料亭坂福(10,000円芸者さん付、最少催行人数15名)

◎コース：八王子駅前広場・駅前通り→西放射線通り・中町（三業地）→八日町交差点（旧札の辻：高札場）→田町遊郭跡（戦前の遊郭建築）→元横山町公園（リバーフロント公園構想の一部）→大和田橋（震災復興期の国道20号線橋梁、焼夷弾の跡が残る）→東放射線通り→繊維試験場跡→八王子駅前

【八王子のまちづくりの歴史】

現在の場所に八王子の中心市街地に相当するものを最初に構想したのは400年前、徳川幕府の草創期に活躍したテクノクラート大久保長安とされています。長安は道路、治水などに大きな足跡を残し、現在の八王子の基礎を作りました。

その構想は宿の建設、市の開設、代官所、武家（千人頭）屋敷地区の設定、社寺仏閣の配置、甲州街道と北関東と東海道を結ぶバイパスの交差点の設定、浅川の治水など非常に大きなものがあり、優れた地政学的な位置づけは八王子の発展の礎となりました。

明治時代以降、江戸時代の宿場町から繊維中心の軽工業、商業都市として発展した八王子ですが、時代の変遷の中で何度かの大火などを経てもその都市としての骨格を変えることは出来ませんでした。この都市構造を近代化したのが戦災復興区画整理でした。